

瀬戸内学園広報紙

発行 社会福祉法人 瀬戸内福祉事業会

- 瀬戸内学園
- 根っこ せとうち
- つばさせとうち
- ケアホームせとうち
- ふたば
- クローバーせとうち
- つなぐ せとうち

発行責任者 遠藤 幸雄

〒712-8015 倉敷市連島町矢柄6092 ☎086-448-1811

せとうち



クッキー作りに真剣です！



洗濯、毎日の仕事です！

つばさせとうちの仕事風景です



お掃除ならまかせてください！



封入作業頑張ってます！

「出口のないトンネルはあります」この言葉は水泳選手の池江璃花子さんが白血病の闘病中に、主治医の先生からもらった一言です。池江璃花子さんはご存じのとおり、「東京オリンピックでメダル間違いなし」と言われながら、突然の病に侵され、10か月の入院生活を強いられました。「死んだ方が楽」と思うほどの闘病でしたが、見事に乗り越えて、オリンピック出場の手符を掴みました。当時は、その姿に日本中が、感動と勇気をもたらされ、東京オリンピックも無観客開催でしたが、大いに盛り上がりました。

同様の言葉に、小説家吉川栄治氏の「君よ、朝の来ない夜はない」という名言があります。「夜」は苦しみや困難を表し、「朝」は希望や成功を表しています。今がどんなに苦しくてもそれが永久に続くことなく、必ずいつか希望の光が差し込んでくるという、人としてとても前向きになれる言葉です。

現在、新型コロナウイルス感染症は流行状況や感染対策に変化をみせつつも、まだまだ終息には至っていません。医療や福祉の現場では、どうしても感染が拡大してしまいうケースが後を絶ちません。瀬戸内学園でも例にもれず、感染が拡大してしまつた時期がありました。それは職員、ご利用者が、日々どんなに一生懸命感染対策をしても防ぎきれないものでした。

日常を取り戻すために・・・その一心で、その時の瀬戸内学園のご利用者や職員の頑張り、凄まじいものでした。本当に頭が下がる思いです。また、サポートをしていたいただいた保健所や障がい福祉課を始めとする様々な行政機関や同法人の施設、瀬戸内学園家族会等の関係各位に改めて感謝の意を表します。私自身、瀬戸内学園園長という役職を拝命し、周りに助けられながらなんとか一年が経過した矢先の出来事でしたが、「きつと明日こそはいいことがある、出口に辿り着く、朝日が差し込んでくる」ことを信じて、ご利用者、職員が一丸となって乗り越えることができましたように感じています。

トンネルには必ず出口があります。これからの起こりえる困難に対しては、最大限の努力を施し、その中で積み上げ、蓄えてきた力を基に、瀬戸内学園らしく全員でスクラムを組み、一歩ずつ、強く、強く試練に立ち向かっていきたいと思います。

出口のないトンネルはない
瀬戸内学園 園長 遠藤 幸雄

令和3年度 瀬戸内福祉事業会 事業報告・決算報告

令和4年6月23日に、グリーンビレッジ瀬戸内において評議員会を開催し、瀬戸内学園、グリーンピア瀬戸内、グリーンビレッジ瀬戸内の事業報告ならびに瀬戸内福祉事業会の決算報告を行ないました。

令和3年度、瀬戸内学園では、新型コロナウイルス感染症に対応すべく、より安心・安全に生活をしていただくために、新たな活動拠点の立ち上げを行ないました。それにより、令和3年12月、多機能型事業所つばさせとうちの新築移転と新たに生活介護事業所つなぐせとうち(定員20名)の開設に至りました。

また、高齢、重度化による食事形態の配慮の必要性や災害、人員不足等のあらゆるリスクに備えていくために、給食業務の見直しを行ない、令和4年度から給食業務を全面委託することといたしました。

法人の決算については、別表のとおりとなります。なお、令和4年5月20日に監事(2名)によって行なわれた監査で、事業報告・決算報告ともに適正であるとの監査報告を受けています。

令和3年度資金収支及び事業活動収支計算書総括表

(単位:千円)

資金収支計算書			
	決算額		当期資金収支差額
	収入	支出	
事業活動による収支	1,713,074	1,606,996	106,078
施設整備等による収支	51,897	156,841	△ 104,944
その他の活動による収支	36,040	14,221	21,819
当期資金収支差額合計	1,801,011	1,778,058	22,953

事業活動収支計算書			
	決算額		当期活動収支差額
	収入	支出	
サービス活動増減の部	1,697,534	1,644,048	53,486
サービス活動外増減の部	15,539	12,092	3,447
特別増減の部	3,654	3,536	118
当期活動増減差額	1,716,727	1,659,676	57,051

貸借対照表			
資産の部		負債の部	
流動資産	1,168,809	流動負債	497,500
固定資産	2,453,210	固定負債	941,418
基本財産	2,214,897	負債の部合計	1,438,918
その他固定資産	238,313	基本金	426,886
		国庫補助金等特別積立金	622,462
		その他の積立金	20,500
		次期繰越活動増減差額	1,113,253
		純資産の部合計	2,183,101
資産の部 合計	3,622,019	負債及び純資産の部合計	3,622,019

令和3年度 瀬戸内学園後援会報告

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常の理事会は開催せず書面表決での議決とさせていただきます。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症に対応すべく新たに多機能型事業所つばさせとうちを新築移転したいとの要望があり、コロナ禍でしたがご無理を承知で会員並びに会費を募りました。その甲斐あって個人会員301名、法人会員30法人の多大なご協力をいただき、1,046,000円の会費が集まりました。この場をお借りしまして、後援会に入会していただいた会員の皆さまに厚くお礼申し上げます。

今回、その会費を基に、多機能型事業所つばさせとうちへ公用車1台と食堂の家具一式を寄付させていただきました。園長より、ご利用者はとても喜んでおられ、クッキー製作や掃除の仕事に精を出されているとの報告を受け、大変うれしく

思っているところです。

会員の皆さまにおかれましては、健康にご留意されますとともに、今後とも瀬戸内学園後援会にお力添えをいただけるようお願い申し上げます。

瀬戸内学園後援会
会長 菊池 捷男

【後援会加入のお願い】

年会費 個人会員一口 1,000円
法人会員一口 10,000円

ご入会、お問い合わせは、後援会事務局までお願いいたします。

TEL 086-448-1811

令和3年度 苦情・事故ひやりはっとの報告

令和3年度、苦情報告は3件、事故報告は270件、ひやりはっとな報告は116件ありました。この報告を基に、苦情解決検討委員会・危機管理委員会を毎月開催し、解決を図ってまいりました。

苦情報告は、今年度の3件のうち、1件が地域住民の方、2件はご利用者のご家族からの苦情でした。内容はすべて職員への配慮不足等によるものであり、一つひとつの苦情に対し、部署会議等で考えを改め、真摯に対応できるように意識啓発を行ないました。

事故・ひやりはっとな報告についてですが、昨年度倉敷市に報告した事象は、転倒による骨折事故を含め9件を数えました。他にも怪我による事故報告が多くみられ、ご利用者の高齢化・重度化が課題として浮き彫りにされた状況が多々見受けられました。そのため、各事業所にて日課の見直しを中心に協議を重ね、また、できる設備の改善には積極的に取り組まれました。その他の事象につきましても1件ごとにリスク分析を行ない、改善を行なってまいりました。

日本の障がい福祉の在り方において、平成5年に障がい者施策の基本となる「障がい者基本法」が策定されて以降、その後の施策に大きな影響を与え、「障がい者虐待防止法」を始め、「障がい者差別解消法」の制定や「障がい者権利条約」の批准等、障がいのある方の権利擁護に関する様々なことが法整備の中で定められてきました。令和4年からは福祉事業所において虐待防止委員会の設置と、身体拘束についての適正化が努力義務から義務化となり、障がい者虐待防止については更なる推進がなされていくと見られます。その流れの中、瀬戸内学園でも平成24年10月に虐待防止委員会が発足し虐待防止に努めてきましたが、よりご利用者と現場の支援員の目線に立ち、具体的にご利用者の権利擁護と支援・サービスの更なる向上に向け様々な取り組みを進めています。

まず一つ目が令和3年度に各事業所のチームメンバーで構成された「ご利用者の生活を守る会」の発足です。最初の取り組みとして、支援現場等で使われている言葉や対応に関して意見を寄せ合いました。普段何気なく使っている言葉をより丁寧な言葉に言い換え、尊敬を傷付けずにご利用者に関わることができるよう、具体的に明示した「言い換えリスト」を作成しました。言い換えリストは職員室や各事業所の職員の目に入りやすい場所に掲示をしております。掲示後、「この言葉は〇〇って言うんだっ」とすぐに丁寧な言葉に言い換えている職員が増えました。言葉の乱れは支援の乱れにつながるということを念頭に置き、この言い換えリストが意識せずとも瀬戸内学園のスタンダードなものになればと考えています。今後の活動についても現場の支援やご利用者の権利擁護に直結する具体的な部分の改善に取り組んでいければと思います。

二つ目は人権プロジェクトによる活動です。人権プロジェクトは瀬戸内学園グループの職員がメンバーを担う八つの特設委員会のひとつです。支援の質・サービスの質の向上を目的とし、ご利用者の自己決定権や権利を保障するという方針のもと、豊かで暮らしやすい生活を実現するために検討と改善案を提案し、活動を行っています。その中の取り組みのひとつとして、施設サービス評価について、毎年職員代表による自主評価という形式で実施をしてい

虐待防止に関する取り組み
 ～ご利用者の生活を守る会と人権プロジェクト～
 支援主任 山下 広之




ソフト食と普通食

瀬戸内学園の厨房は長年、直営として給食業務を運営してまいりましたが、この度、一富士フーズサービス株式会社へ給食業務全般を業務委託いたしました。その中で連携を図り、手作り感にこだわりの味、素材を生かした味付けや栄養バランスはもちろん、家庭的な温かみを感じられる食事を心掛けています。

今、瀬戸内学園では、高齢化に伴い、嚥下能力が低下しているご利用者の方が増えてきています。そのため、普通食を食べることが難しい方には、普通食をさらに調理・加工してソフト食として提供しております。

現在、毎日の食べる楽しみを提供する他に、ご利用者の方の特性に応じた食事内容や嚥下能力に合わせた食事形態等、個別に応じた食事対応が必要となっており、食に対するニーズは年々高まっています。個々に応じた食事形態に対応するとともに、今後も支援員、看護師、委託業者が協力し、ご利用者の皆さまに喜んでいただけるような、家庭的で温かみのある食事提供に努めてまいります。



ご利用者の食事風景

給食業務の取り組みについて
 管理栄養士 三宅 理子



後援会ご加入
ありがとうございました

- ・ 神上園ミエ子様
- ・ 小幡 和夫様
- ・ 田中 英子様
- ・ 増田 昭文様
- ・ 宝ヶ丘町内会様
- ・ 温品なつこ様
- ・ 五反田茂男様
- ・ 高田 義彦様
- ・ 日下 博之様

令和4年3月1日～7月15日(順不同)

ご寄付・ご協力
ありがとうございました

- ・ 五反田茂男様
- ・ 浦田 結香様
- ・ 岡本美智子様
- ・ 原 裕康様
- ・ 宮本 勇様
- ・ 安藤 青児様
- ・ 遠矢 恵子様

令和4年3月1日～7月15日(順不同)



桜、満開だな

願いごと、叶いますように



最近の
ご利用者の様子



おやつ作り楽しいな



ミュージックケアで
リラックス♪

救命講習

去る6月24日、救マークの更新を行なうため、倉敷市消防局員を講師に招き、救命講習を受けていない職員を中心に救命について学びました。



「せとうち」の出来事

◎新しいご利用者

- 高木 伸様 3月3日付
- 濱田 悠希様 3月22日付
- 中山 天人様 4月1日付
- 根っこ せとうち
- 澤木 優仁様 4月1日付
- つばせせとうち

◎退所されたご利用者

- 三谷原 恵様 6月30日付
- ケアホームせとうち

◎新人職員

- 大矢佳乃子 3月7日付
- 瀬戸内学園 支援員
- 雪吉晃二郎 3月7日付
- 瀬戸内学園 支援員
- 池口 実優 3月7日付
- 瀬戸内学園 支援員助手
- 松原 源 4月1日付
- 瀬戸内学園 支援員助手
- 三神 敬子 7月1日付
- 瀬戸内学園 支援員助手

ご利用者に安心して笑顔で過ごしていただけるよう頑張ります。よろしく願いいたします。

◎退職職員

- 西 勇斗 3月31日付
- 瀬戸内学園 支援員
- 岡本 舞香 3月31日付
- 瀬戸内学園 支援員助手
- 長瀬 香 3月31日付
- ケアホームせとうち 世話人
- 原田 俊江 3月31日付
- 植野 慶子
- 澤根 康弘 3月31日付
- 榎野 直子
- 村上 久巳 3月31日付
- 瀬戸内学園 調理員

令和4年3月1日～7月15日(順不同)

訃報

ご利用者 浦田 昌一様
昭和54年、瀬戸内学園の開所時から入所されておりましたが、令和4年5月17日に永眠されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



新人職員の声

大矢佳乃子

私は福祉に関する知識はありませんでしたが、先輩職員の支えと、ご利用者の優しさに触れることで働くことができていると実感しています。

ご利用者の皆さまは職員の行なうことを把握して教えて下さったり、私が入職して間もないことを伝えると「すぐに慣れますよ」と声を掛けて下さったり、新型コロナウイルスの感染予防対策として身に付けていたガウンの紐が緩くなっているのを見つけて結び直そうとして下さることもありました。何を伝えたいのか、何をされようとしているのか、意思を読み取れないこともあります。何度か声を掛けたり他職員に尋ねたりすることで意思疎通を図れることも段々と増え、ご利用者の表情が和やかになることも多く、ご利用者のことが愛おしく思えるようになりました。新型コロナウイルスの感染予防対応中は、そんなご利用者の皆さまに我慢していただかなければならないことも多く、心苦しく思う面もありました。支援員としては貴重な体験ができました。これからご利用者の日課も変化していくと思いますが、ご利用者の皆さまが今よりも快適に過ごせるように努めます。まだまだ至らぬ点は多くございますが、よろしく願い申し上げます。

編集後記

新型コロナウイルス感染症拡大につきましては、皆さまにご迷惑とご心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。ご利用者の方々と、職員と一丸となって終息まで乗り切ってくださいました。現在は、今回の経験を活かして日々の支援の在り方を見つめ直し、新たな生活様式を作っていくよう工夫を凝らしています。今後も、より一層感染対策に努めてまいりますので、ご理解ご協力のほどお願いいたします。(編集部一回)